

## 第14回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年3月8日（火） 13：30－15：10

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、白地委員、松尾委員、松本委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

中村宇宙戦略室審議官、松井宇宙戦略室参事官、行松宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) H3 ロケットについて

資料1「H3 ロケット開発状況について」に基づき文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(○：質問・意見等 ●：回答)

○H-IIA/B ロケットから H3 ロケットへの移行計画に関し、H-IIA/B ロケットの最終号機のバックアップ品は打ち上げが順調にいけばデッドストックになるので、対処方針を決めておくべき。

●打ち上げの on-time 性に、不確実性が増さないことも考慮しつつ三菱重工業と調整をしていく。

○H3 ロケットの SRB-3 とイプシロンロケットの一段モータの共通化は、双方が最適化されるように検討するべき。

○H3 ロケットの SRB-3 のノズルは固定、イプシロンロケットのノズルは可動と、ノズルを二種類にするのは何故か。

●H3 ロケットは H-IIA/B ロケットに比べてメインエンジンの推力が大きく、SRB-A のジンバリングが不要となる。また、ノズルを固定にすることで H3 ロケットの低コスト化も可能となる。他方、イプシロンロケットは制御のためにジンバリングが不可欠となる。

○H3 ロケットは H-IIA ロケットに比べて、どの程度コストが下がるのか。

●H3 ロケットの基本形態では、H-IIA202 型ロケットの半額程度となる見込みである。

○(資料1 10 ページの)「顧客へのサービス」が「世界標準以上」とはどういうことか。

●主として人工衛星に与える振動等の環境条件を欧米のロケットと比較しても遜色のないものにするのである。この他、受注を受けてから打ち上げるまでの期間や、レイトアクセス(搭載された人工衛星に打ち上げの直前までアクセスできること)等についても国際的に競合できるものにする。

○H3 ロケットの開発計画が遅延した場合、移行計画は影響を受けるのか。

- 打ち上げ予定の人工衛星の中には、H-ⅡA/B ロケットでも打ち上げられるものとH3 ロケットで打ち上げることが前提となっているものの二種類がある。人工衛星の種類とユーザの意向に応じて対応する。
- H3 ロケットの基本設計審査では、国際的な競争力の確保等の観点からも審査するのか。
- 「自立性の確保」や「国際的な競争力の確保」という政策的な観点も含めて確認する。
- イプシロンロケットについては、H3 ロケットとの一段モータの共有化以外にも電子部品の共有化等、コストダウンにつながる検討も進めるべき。

以 上